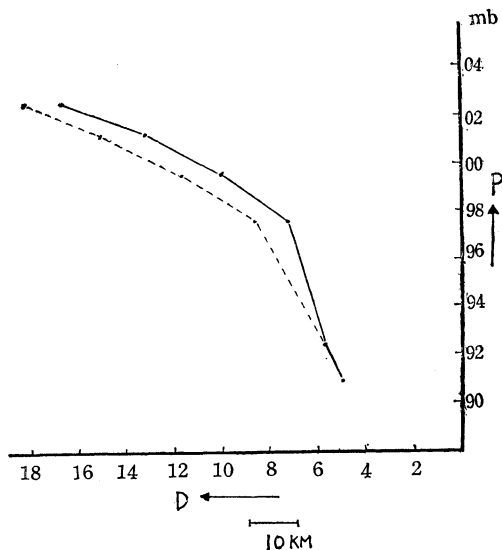


第10図 鳥島の気圧変化と6018の進路との
相対関係

参考文献及び参考資料

- 1) 吉沢正一, 1960: 島あるいは片側だけの資料による中心位置の決定について, 昭和35年度全国予報技術検討会資料(気象庁予報部)
- 2) 島田健司, 1960: 台風の飛行機観測について,



第11図 鳥島を基点とした台風中心に至る
距離と鳥島の気圧の毎時の変化状況

昭和35年度全国予報技術検討会資料(気象庁予報部)

- 3) 宮内駿一, 1960: 鳥島のデータについて, 昭和35年度全国予報技術検討会資料(気象庁予報部)
- 4) 大塚竜蔵, 1955: 台風進路予想に関する2, 3の検討及び台風の蛇行運動について, 測候時報第22巻第9号
- 5) 大塚竜蔵, 島田健司, 1955: 台風5414の経路について, 予報解析検討資料第28号(中央気象台)
- 6) 大塚竜蔵, 1956: 台風眼の大きさについて, 研究時報第8巻第4号
- 7) Tu, Cheng. Yeh, 1950: The motion of Tropical storms under the influence of a Southerly Current. J. Met. Vol. 7. No. 2.

杜甫と梅雨と呉船録

渡辺次雄

漢和字典で梅雨の項をみると、たいてい杜甫の詩の一部を引用してある。その詩は次のようである。

南京^{なんけい}犀^み浦^の道
四月^み黄梅^の熟^る

湛々たる長江去り
冥々として細雨来る

このことから梅雨は梅のみのる時期の雨のことだという説にもなっている。もっとも、これに対し、梅と霪はおなじ音であるから、霪^{はいりゅう}雨が梅雨になったのだとする説も

ある。

ところで、上の詩中の南京^{なんけい}というのは成都のことである。これは唐の玄宗皇帝が蜀に行幸したときこうきめたことがあったからである。しかし、成都是重慶よりもずっと西、峨眉山よりもかなり北である。こんなところに梅雨がおこるといえるのはおかしい。

はたせるかな!! 2人の異論がある。ひとりには南宋の陸游で、彼は杜甫の時代にはあったが、南宋の頃にはなくなった。つまり気候変動のせいだとした。おなじ頃范成大は呉船録の中で、杜甫は単に梅の実のみのった時期に通過して雨に会っただけだと述べている。